

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174800548
法人名	有限会社 彩の里
事業所名	グループホームわらび苑
所在地	368-0102 埼玉県秩父郡小鹿野町長留3073 (電話) 0494-75-1890

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月19日

## 【情報提供票より】(平成19年9月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	17人	常勤4人、非常勤13人、常勤換算9.53人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分の一部

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
または1日当たり				

### (4) 利用者の概要(10月19日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.9歳	最低	74歳	最高	90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小鹿野中央病院(精神科)、本間医院(内科)、倉林歯科クリニック
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは山あいの自然に恵まれた中にあり、養蚕農家の旧宅を改造して作られ、木材の温かみを感じられる。また利用者が自由に出入りできる間取りになっている。庭や畑が広く、野菜等を自給しているが、近隣の農家からも融通してもらうなど交流があり、地区の区長であるホーム長は日頃から地域との関係を深めている。管理者と職員で考えた理念に沿ったケアを実施するなど、明るく家族的なホームであり、今後の発展が期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価での改善課題は特になかったが、さらに地域の人との交わり方を工夫して、地域住民から頼られるように、またグループホームの必要性を理解されるように努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全体で評価の意義を理解しあい、ミーティング時に改善シートを作成するなどし、自分達を成長させるものとして、日々のサービスを振り返り、改善できるように努力している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成18年度より2ヶ月に1度、家族・役場職員・民生委員を交え運営推進会議を開催している。現在の主な協議内容はホームの状況報告、苦情相談、共通理解等であるが、今後はテーマを決めて会議を持ち、意見を出し合いより充実した会議を目指していると考えている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には来訪時及び電話等でこまめに連絡している。また意見箱の設置や、運営推進会議、家族会等で意見を出し合い、ホーム運営について話し合っている。「ホーム便り」も発行し、情報提供に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃から地区全体のことを理解し、運動会、敬老会、お祭り等の行事には積極的に参加して交流を深めている。また地区の小学生の見学や中学生のボランティア活動も受け入れている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念の中に新たに経営に関する事項を追加し、地域の中で自然を肌で感じてもらうだけでなく、地域の人と交わりを持つように心がけている。住民から頼られ、グループホームの必要性を理解されるような運営に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は分かりやすい言葉で表現し、居間に掲示してある。毎朝の申し送り時に復唱し、常に念頭に置きながらケアに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム長が区長をしており、地域との関係は密接である。地区の運動会、敬老会、お祭り等の行事に参加し、交流を図っている。時には地区の小学生の見学や中学生のボランティア活動も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長や管理者他職員も評価の意義を理解し、自己評価を作成している。改善策は会議で話し合い、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ホームの状況報告、苦情相談、共通理解等について話し合われている。今後はテーマを決めて会議を持ち、より充実したものとしていこうと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場の健康福祉課や在宅介護支援センターに働きかけ、町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用者の状態についての記録を送付している。ホームの状況(職員紹介も含む)は「わらび苑だより」や、家族会で報告している。金銭管理についての報告は、必要に応じて、面会時等に行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会議等で意見を聴く他、意見箱の設置や苦情相談窓口を設け、意見等は運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独施設のため異動はない。職員の悩みや意見を管理者が良く聴くなど、できるだけ離職を抑えるようにしている。またホーム長、事務長が職員の良き理解者となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職場研修担当者養成研修に参加しているので、今後学んだ内容を活かして、職員が段階的に力をつけていけるような研修を計画している。		職員の介護力の均一化を図り、サービスの質向上のためにも教育研修を受講して、伝達講習によりさらなる介護力アップを望む。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を通して知り合いをつくり、情報交換をしている。アセスメント用紙等の改善を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>その人に合ったペースで対応している。状況に応じて3日間程度のお試し体験入居ができ、体験した上で入居してもらっている。なお、家族も希望があれば宿泊可能となっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、地元の郷土料理の作り方や、野菜作り、歳時記など利用者から学ぶことも多く、共に支え合う関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で積極的に話をしたり、行動を見て本人の望んでいることを理解できるように努めている。希望や意向の把握が困難な方については、ケア会議で検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランの立案、見直し時にはケアカンファレンスを行い、皆で意見を出し合いながら作成している。家族からの意見を面会時に良く聞き、立案時取り入れている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヵ月ごとにケアプランの見直しをしているが、必要時は本人、家族、関係者と話し合い、ケアプランの立て直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じた外出や予定外の通院、また必要に応じての医療機関や他施設との連絡調整等も出来る範囲で支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があり、本人や家族が納得した上で受診している。また利用者の状態によっては往診治療も受けている。その他必要に応じ、他の医療機関の受診も支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会議等でも重度化や終末期のケアの方針について説明しているので、重度化した場合は個別に家族と相談して方針を決めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には採用時や会議時にプライバシーを確保したケアについて十分話し合っており、利用者を傷つけないようできる限り声かけの仕方に注意するなど、日々の対応に生かされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の思いを優先して、散歩や畑仕事、景色を眺めるなど、それぞれが自由にゆったりと過している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は畑で野菜を収穫したり、皮むき等の下ごしらえなど自分の出来る範囲で調理に参加し、食事は皆で楽しく会話をしながら食べている。また一部片付けもしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日、職員の多い時間帯に安全な入浴介助を行っているが、希望により時間を変更する等の努力もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や草むしり、縄編み等以前からやっていたことをホームでの生きがいとして支援している。また編み物や読書など趣味を楽しめるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	居間での生活より広い庭や畑で過ごす時間を多くもち、散歩やドライブで花や景色を眺め、楽しめるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけることなく、利用者が自由に活動できるようにしている。また、こまめに利用者の居場所の確認をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網、災害マニュアルがあり、定期的に避難訓練を実施している。非常用物品を備える努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や好みなどを把握した上で、食事摂取量をチェックしている。また、必要に応じ水分量のチェックも行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は動線が短く使い勝手が良い。廊下やロビーに椅子やソファがあり、休憩しやすいように配慮している。季節の花を飾り心が和むように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が好みのもを飾り、テレビや使い慣れたタンス・机を使うなど、居心地良く過ごせるよう支援している。		